

◆大野晋氏、逝く

◆少年の憧れの職業とは

◆朝ごはん食べてますか

大杉事件のはじまりである。

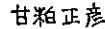
店長會議の席で、ある店長が、林真理子の『RURIKO』の動きがいいという。浅丘ルリ子モデルとしたフクシヨンド。表紙のポートレートがつくしい。私はこの世に愛と虚飾の二つという言い回しのことを、彼女が主役のドラマではじめて知った。彼女は私の人生の師のひとりである。店長は続ける。『RURIKO』によると、四歳の時に父親に将来女優にすることをすすめられた。父親は「私は人に物がある。『私』を人に見ることがありませぬ。初めて見た時に息を呑みましてよ」と絶賛した。のは当時満映の理事長だった甘粕正彦である。四歳の時に顕現する美貌もすばらしい。銀幕スターを見たいのが、四歳の少女に將來の銀幕スターを見たい語の前の編だけを讀んだ。

その人物とは部裏手の古井戸に投げ込まれるという陰惨な事件である。犯人とされる甘粕は著者のいうところの「文字通り、古井戸から現われた幽鬼さながらに残忍ないメッス」を付着されて「主義者殺し」の汚名を生涯にわたって引きずることになる。汚名は彼の死後も長くレッテルのように歴史に張りついてしまふまで、私も疑うことなく受け取らなければならない。

甘粕は陸軍のスケープゴートにされたのであり、殺人についてには口を閉ざしてゐた。佐野は甘粕の陸軍幼年学校時代の手紙を読み解くことによって、甘粕の残存から程遠い生面目は青年の姿であり、その人格が不慮の

事故によつて歩兵の道を
みきらめ、憲兵となり、
すうには大杉事件によ
つて人生を左右する決定
的は挫折を受ける。こ
の人格の大きなねじれ
が、満州事変の謀略工
作を経て、満州の夜の
帝王を生みだす負の
エネルギーとなっていく。
「大杉事件」は「甘
粕事件」であり、甘粕
が当事者ではなかった
ら、満州の夜はまた別
の装いを呈していたと
思ふ。

(蛙)



年少の志を持ち続けた
日本語学者

だ(長らく品切れでしたが重版したようです)。とくに性交歩に重点を置いた読解は、この「大恋愛」説への敬愛のあらわれで、お二人が真面目で、顔で「ここは実事ぶりです」か、「うーん、みり、でしようね」とやみりあっているのは可笑しい。

大野さんは少年のころ、軍国主義の日本を愛に思い、「日本とは何なのか」という疑問を持ち、言葉の争ひかりとしてその謎を解こうとされた。曰本語を深く研究し、代表的古典の記・紀・万葉・源氏などの単語を網羅した「岩波古語辞典」を編纂。六十歳のとき運命的に出会った「タミル語」(日本語に対応する単語を数多くもつ)によって、曰本語の由来と成立への探求に向かう。二十五年の研究の成果は曰日本語の形成と、曰弥生文明と南インドにまつめうれ、少年時代の疑問に答えを出された。

「あれは学問の根柢だ。曰本文代の基本の本の仕組みをこれほど明らかにした学者は、ほかにあるせんでした」は丸谷さんの弗辞(全文は『文藝春秋』掲載)。

最高の日本語学者の死を悼みたい。

(JR)

どうして？

「ネットいじめ」があることは皆さんご存知ですか？「プロ」は知っていますか？プロファイルを作る人、ホームページの略語、本来は自己紹介をする人と友達を増やすためのサイトです。自己紹介、個人情報とは違って、いじめや犯罪に悪用されているのです。比較的新しいことで、まだこの状況を知らない人もいます。さて、「ネットいじめの真実」は、ネットいじめの状況が（「プロ」も含めて）外部者にもわかりやすく書かれた導入部、ネット・リテラシーの考え方は、フルフルの「プロ」の考え方は、実に最新の内容です。即ち、最新の内容です。ありがたいことに、ネットは一般論が一切ありません。ネット以外のいじめにも言及があります。


 ホンキョウマ さんのプロフィール

ニックネーム	しろくまくん
性別	オス
血液型	—
生年月日	—
職業	狩猟
居住所	氷上
出身地	北海道
ジャンル	野生動物

現に中高生と何き今
う大人には現実的かつ
まともな内容で共感
き、部外者にとつては
現実をうかがい知る
機会となるでしう。

陸

君

2

科生

582
く

田たつた秒のパソコン術。パソコンでの作業が苦手で四苦八苦していた時、このタイトルが目に見え込んできた。パソコンに強くない人ほどなんでも「マウス」で操作に頼って作業しているそうぞう。
 キーボードとマウスを行ったり来たりのため効率が悪くなっている。「ショートカット」を活用することによって作業効率があがります。
 目からうろこの裏技が満載で、さうぞう、試してみたくはります。
 (5)

要なものが、十分にとり出せる整理術（例えばアクトリー）、みんなの朝（はん）（大和書房）、インターセックス（集英社）

編集後記：甘粕については、角田房子著『寛兵大尉 甘粕正彦』が著名で、同様に甘粕の口説をとっている。
店長の“甘粕さん”は、角田による。